

強者の戦略

こんにちは、日本史の岡上です。東大の二次試験が近づいてきましたね。今年受験の皆さんは追い込みの時期。刻一刻と勝負の時は近づいていますが、焦らず着実に。

“試験問題は大学から受験生へのメッセージ”とよく言われますよね。その意味では東大の日本史の問題はメッセージ性の強い問題だと思います。「東大はキミたちにしっかり答えを出して欲しいんだ！！」と大声で訴えている感じ(笑)。そのメッセージをしっかり受け止めて、少し楽しむくらいの心持ちで本番を迎えて欲しい。大丈夫、今までコツコツと積み上げてきたのですから。本番の成功を祈るばかりです。

さて、ここから解説です。今回は特に今から受験生になる高2生、そろそろ受験校を決めようと思う高1生の皆さんに向けて書きたいと思います。

今回は「東大日本史のみかた-番外編-」として同じ「天武天皇」をテーマとした東大・京大の問題を並べて出題してみました。**東大・京大の論述の違い**を感じることができたでしょうか。その違いに注目しながら、それぞれの問題をみていきたいと思います。

<東大・京大の論述問題の違いとは？>

(1) 基本の確認

東大・京大ともしっかりと基本事項を押さえておくことは当然。「教科書はもちろん、用語集に書いてあることは頭に入っている」、その状態をスタート地点として論述問題には取り組んで欲しいと思います。でも、この段階がおろそかになってしまっている受験生も案外多く見受けられます。**肩に力を入れて、難しいことばかりするのが論述対策ではありませんよ。普段の勉強をコツコツと。東大を目指す人も、京大を目指す人もここは油断なく。**

【天武天皇の関係年表】

631年?	舒明天皇と皇極天皇(斉明天皇)の子として生まれる。
663年	百濟再興のため、朝鮮半島へ出撃した日本軍、白村江の戦いで惨敗。 国内防衛のため水城・烽・朝鮮式山城の設置。
667年	中大兄皇子、近江大津宮に遷都 天智天皇即位(皇太子は弟の大海人皇子)
670年	我国初の本格的戸籍庚午年籍作成
671年	大海人皇子、吉野へ逃れる。天智天皇の皇子大友皇子が即位 天智天皇崩御
672年	壬申の乱 天武天皇即位
684年	八色の姓制定
686年	天武天皇崩御
689年	飛鳥浄御原令施行
690年	庚寅年籍作成

天武天皇の生きた時代、その頃の事件・出来事など、確認できていますか？

【天武天皇に関する用語と解説】

白村江の戦い	663年、朝鮮半島南部の白村江で行われた倭・百濟軍と唐・新羅軍との戦い。倭は敗戦後、唐・新羅の侵攻に備え、水城・朝鮮式山城・防人の設置を進めた。
庚午年籍	670年庚午の年、天智天皇のもとで作成された戸籍。最初の完備した全国的戸籍で、氏姓を正す根本台帳として永久保存された。但し、現存せず。

強者の戦略

壬申の乱	671年天智天皇が死去し、翌年大友皇子の近江朝廷側と吉野の大海人皇子とが皇位をめぐる争った内乱。大海人皇子は近習の下級官人である舎人や地方豪族などの協力を得て、東国の兵の動員に成功し勝利。
飛鳥浄御原宮	壬申の乱で勝利した大海人皇子が遷都した。
皇親政治	天武・持統朝から奈良時代前半にかけて存在した、天皇と皇族（皇親）を中心にした政治形態。
八色の姓	684年、天武天皇が制定した8階の姓。真人・朝臣・宿禰・忌寸・道師・臣・連・稻置。豪族身分の再編成を行った。
飛鳥浄御原令	天武天皇が編集を命じ、689年持統天皇の時に施行された令。
天皇	大王に代わる君主号。推古朝頃に成立したという説もあるが、律令制が急速に整備され、君主が神格化されるようになった天武・持統朝頃、その段階にふさわしい君主号として、道教の神、天皇大帝に由来するという天皇号が採用され、飛鳥浄御原令で正式に規定されたとする見方が有力。
庚寅年籍	689年己丑の年から690年庚寅の年にかけて、持統天皇が飛鳥浄御原令に基づいてつくらせた戸籍。
白鳳文化	ふつう大化の改新から平城京遷都に至る時代の文化をいう。律令国家建設期の清新さと明朗性が特色。
薬師寺	天武天皇が皇后の病氣平癒を祈り創建。

それぞれの用語はもちろん、解説まで頭に入っているでしょうか。ある用語を簡潔にどう説明するのか、これは論述問題を解く上で非常に大切なことです。しっかりと確認しておきたいですね。

(2) 京大の論述問題

それでは、まず京大の論述問題からみていきましょう。

【2000年度 京都大学 論述問題1】

天武天皇の時代はどのような時代であったか。いくつかの観点から具体的に述べよ。

この問題ですが、最近も同様の形式の出題がありました。

【2010年度 京都大学 論述問題1】

足利義満の時代はどのような時代であったか。いくつかの側面から論ぜよ。

さて、両問題とも時代設定・テーマは明らかですね。もちろん今回は「天武天皇の時代の状況」です。ただ、厄介なのはそれに続く条件の部分。「いくつかの観点」っていくつか述べたらいいのでしょうか。何を述べたらいいのでしょうか。漠然としていて、どこから手をつけていいのかわからなかったという人もいるかもしれません。実はこれが京大の論述問題の特徴のひとつと言えます。

東大の論述問題が資料文（グラフ・写真など）の分析を要求したり、問題文でかなり細かく条件を設定するのに対し、京大の論述問題はなんとなく制約が少ないような印象を受けます。誤解を恐れず言うなら“自由”な感じでしょうか（笑）。しかし、だからこそ“自由”に書いてしまうと、**文章は仕上がってもほとんど得点できない解答になる危険性があります**。つまり、京大の問題は一見すると解答しなければならない内容が定まっていなくて、実はしっかりと定まっている。ですから、**皆さんが注意しなければならないのは“採点基準がどこにあるかを意識して解答を作成する”**ということです。もちろん京大の採点基準は明らかになっていませんので、

強者の戦略

推測するしかないわけですが、ほぼ確実に言えることは、

問題のテーマに対して

- ①用語が正しく使用できていれば点が与えられる。
- ②200字という制限字数の中で、多くの用語に言及すれば点が得やすい。
- ③漠然とした表現には点が与えられない。

ということだと思います。この推測を正しいと仮定すれば京大の論述問題の取り組み方も分かってきますね。

今回の問題であれば「いくつかの観点」という条件から、最低でも3つは観点を用意しなくてはなりません（そもそも1つでは条件を満たしていませんし、これは日本語の問題ですが2つをあまり「いくつかの」という言い方をしませんよね）。では、その観点としては何がふさわしいでしょうか。今回の問題であれば「政治的観点」、「外交的観点」、「文化的観点」の3点が妥当ではないかと思います（他にも例えば「経済的観点」なども考えられなくはないですが、天武天皇時代の経済…。教科書の記述からはあまり思いつかないですよ）。

以上を踏まえて解答を作成しておきます。大切なことは、**条件を満たしながら正しく用語を使用して問われている内容（テーマ）に対し解答すること**です。

テーマ：天武天皇の時代の状況

条件：いくつかの観点

→「政治的観点」・「外交的観点」・「文化的観点」

①「政治的観点」

- ・壬申の乱後、即位
- ・天皇中心の皇親政治
- ・八色の姓で豪族の身分を再編成
- ・飛鳥浄御原令の制定

②「外交的観点」

- ・高句麗滅亡（668年）後、朝鮮半島を新羅が統一
- ・白村江の戦い以降、唐との関係を遠ざけ、遣唐使は派遣せず
- ・朝鮮半島における唐・新羅の対立激化に伴い、新羅との関係を重視

③「文化的観点」

- ・初唐文化の影響を受けた白鳳文化の展開
- ・鎮護国家思想に基づく大官大寺や薬師寺の造営
- ・天皇家の祖先神を祀る伊勢神宮を中心とした祭祀の整備

【解答例】

壬申の乱に勝利して権力を集中させた天武天皇は、天皇中心の皇親政治を行い、部曲を廃止し、八色の姓で豪族の身分を再編成する一方、飛鳥浄御原令や国史編纂を命じるなど律令国家樹立を目指した。対外的には朝鮮支配をめぐる唐と新羅の対立が激化するなか、新羅との関係を重視して遣唐使は派遣しなかった。文化的には伊勢神宮が整備される一方、鎮護国家思想に基づいた仏教保護政策と初唐文化の影響を受けた白鳳文化が展開された。（200字）

強者の戦略

(3) 東大の論述問題

次に東大の論述問題をみてみましょう。

設問

7世紀後半の戸籍作成の進展と、律令国家の軍事体制の特色について、両者の関連、および背景となった「天武の個人的経験」「古代の国際的経験」をふまえて、7行(210字)以内で説明せよ。

もちろん問題が違うので単純な比較とはいきませんが、同じ天武天皇の時代を扱う問題でも先ほどの京大の論述問題とは求められている視点が違いますね。

京大の問題では**条件を満たしながら正しく用語を使用して問われている内容(テーマ)に対し解答することに力点が置かれていました**。言い換えると、**受験までに培った知識を正確に表現することができるのか否かが大きく問われている**のです(そういう意味では、京大の問題が記述問題と論述問題で構成されていることにも納得がいきますね)。

それに対して東大の論述問題は、京大のところでも述べたように資料文(グラフ・写真など)の分析を要求したり、問題文でかなり細かく条件が設定してあるので、**その分析・整理が要求され、さらに既存の知識を土台として受験生にとっては新たな視点を発見させる**ところに力点が置かれているというのが大きな特徴と言えるでしょう。

ちなみに今回の問題では、『「天武の個人的経験」と「古代の国際的経験」をふまえて』という箇所が条件になりますが、これは言うまでもなく「壬申の乱の勝利による権力の集中」と「白村江の敗戦による国際的な緊張の高まり」を指しています。その上で「7世紀後半の戸籍作成の進展と、律令国家の軍事体制の特色について、両者の関連」を答えなければならないのです。つまり、**普段の勉強ではなかなか意識されない“つながり”を発見させる**、これを

目的とした出題といえるでしょう。それらを意識して解答を作成しておきます。

【解答例】

白村江の戦いの敗戦による国際的緊張の高まりによって、日本は国防の強化を迫られた。加えて、壬申の乱に勝利して即位した天武天皇は政治における武力の重要性を痛感し、軍事体制の整備に力点を置き、その基盤を豪族支配下の農民に求めた。そのため人民把握の必要性が生じ、庚午年籍・庚寅年籍が作成され、戸は正丁を徴兵する単位とされた。軍団には兵役を賦課された正丁が交代で配属され、衛士・防人の選抜も行われ、律令国家の軍事力を構成した。(207字)

さて、「東大日本史のみかた—番外編—」いかがでしたか。東大・京大の論述問題の違い、それぞれが何に力点を置き、何を要求しているのか、その一端を垣間見ることができたのではないのでしょうか。逆に両大学の共通点も感じてもらえたのではないのでしょうか。そう、最初にも述べたように基本事項をおろそかにしていると、到底太刀打ちできないという厳しい現実です。ですから、今から受験生になる皆さんには、東大・京大という高い目標を掲げつつも、日々地道な努力を続けて欲しいと思います。その先に必ず成功がありますから。

それでは次回「東大日本史のみかた」をお楽しみに！！